

令和5年度 国語科 授業改善推進プラン

大田区立道塚小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・学習での図書の利用や、図書室・道塚ホールの利用、家読、図書委員会の活動により読書に親しむ児童が増えた。
- ・朝学習や授業中で「書く」学習を増やし、「書く」ことに抵抗なく取り組めるようになり、書く分量が増えた。

(2) 課題

- ・漢字検定の取り組みから漢字への意識は高いが、定着するために引き続き漢字の反復、学習内容の工夫をする必要がある。
- ・辞典を効果的に活用できるように、辞典を日常的に取り入れる学習をする。
- ・「書く」学習で分量は増えたが、書く内容や書き方の型の定着にまだ課題があるため、引き続き「書くってたのしいね」等を活用し、定着を図る。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和5年度結果	令和4年度結果	令和3年度結果
第4学年	全ての観点において目標値と同程度であった。	/	/
第5学年	目標値に対し、「書くこと」が下回った。「話す・聞く」「読む」は上回った。	▽全ての観点で目標値を下回った。 特に「書くこと」が大幅に下回った。 (第4学年時)	/
第6学年	全ての観点において目標値よりやや上回った。「言語文化に関する事項」が大幅に下回った。	▲「読むこと」において目標値を上回った。 ▽それ以外の全ての観点で目標値を下回った。 特に、「情報」が大幅に下回った。 (第5学年時)	▽全ての観点において目標値を下回った。 特に「書くこと」が大幅に下回った。 (第4学年時)

(2) 分析（観点別）

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値と同程度である。主語と述語の関係、ローマ字の定着に課題がある。	目標値と同程度である。物語の読み取りでは気持ちの変化を具体的に想像することに課題がある。	目標値と同程度である。

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
6年は目標値を上回り、定着が認められるが言語文化に関する項目に課題がある。5年は目標値を下回り、特に漢字の定着に課題がある。	目標値と同程度であるが、文章の書き方に課題がある。自分の考えは書けるが、具体的な事例を挙げて書くことや資料から読み取った事実を書くことに課題がある。	目標値と同程度、または少し下回る程度である。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 各学年の配当漢字については、ドリル・単元ごとの小テストを活用し、繰り返しの練習をさせ、定着を図る。 年2回の大田区漢字検定に向けて、過去問題に取り組み、漢字のつくりや字体について身に付けさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 「話し方・聞き方」を教室内に掲示し、伝え合う際に意識させる。 「書くって楽しいね」を活用し、語と語や文と文との続き方など、基本的な文章の書き方を身に付けさせる。 物語文や説明文を読んだ後に、場面の様子を具体的に読み、好きなどころや疑問点などを、理由とともに書かせていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 道塚ホール、図書室両方を活用し、本に親しむ機会を増やす。 教科の学習進度に合わせた並行読書を推奨する。 「家読カード」の追加用紙を用意したり、6年間継続して記録を蓄積させたり、読書への関心を喚起する。

(2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 各学年の配当漢字については、ドリル・単元ごとの小テストを活用し、繰り返しの練習をさせ、定着を図る。 読みの指導の中で、言葉の特徴や使い方に関する内容を取り上げ、語感や言葉の使い方に関する感覚を磨く。 日常的にタブレット学習を取り入れ、ローマ字を使用する機会を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 「書くって楽しいね」を活用し、伝えたいことを筋道立ててまとめる力を身に付けさせる。 物語の読み取りの学習では、登場人物の気持ちの変化を全体で確認していく。叙述をもとに考えを書く学習活動を取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> 図書室での貸出を週に2冊とし、本に親しむ機会を増やす。 教科の学習進度に合わせた並行読書を推奨する。 「家読カード」の追加用紙を用意したり、6年間継続して記録を蓄積させたり、読書への関心を喚起する。

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none">各学年の配当漢字については、ドリル・単元ごとの小テストを活用し、繰り返しの練習をさせ、定着を図る。教科担任制の授業で言語文化に関する事項や言葉に関する単元の学習を実施し、学年間で確実に指導を行い、定着を図る。	<ul style="list-style-type: none">「書くって楽しいね」を活用し、感想や意見を書く機会を多く設ける。問題文や説明文の初発や終末の感想を書かせるときに、文字数や取り入れたい表現、構成の例などを提示して書かせるようにする。自分の考えを書くときには根拠となる事柄を書くよう指導する。	<ul style="list-style-type: none">図書室を活用しながら、隙間読書を推奨し、本に親しむ機会を増やす。教科の学習進度に合わせた並行読書ができるよう、廊下に関連図書を置く。「家読カード」の追加用紙を用意したり、6年間継続して記録を蓄積させたり、読書への関心を喚起する。